

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 14 日作成)

委員会名	力学原理・計算力学小委員会	主 査 名：高島秀雄
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：上谷宏二
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2007 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>コンピュータの進展や解析理論の発展により構造解析法は飛躍的に進展しているが、構造物の力学的挙動を支配する基礎理論の展開は多様化する解析目的に対して十分でない。</p> <p>本小委員会では、構造解析技術における解析対象のモデル化と、それを支配する基礎理論の基盤を明確にし、新しい解析モデルを見据えた力学原理に基づく統一的な計算力学のガイドラインを情報発信する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	高島 秀雄(金沢工大)、新宮 清志(日本大学)池田 隆明(飛島建設)、入江寿弘(日本大学)、大木 洋司(東京工大)、小嶋 英治(ジオトップ)、木林 長仁(竹中工務店)、竹脇 出(京都大学大学院)、松永 裕之(摂南大学)、藤谷 義信(広島国際大学)、藤井 大地(近畿大学)、松本 慎也(広島大学)、森白 清貴(京都工芸繊維大学)、西村 督(金沢工大)、浜原 正行(日本大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2004 年度予算	130,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第1回 平成16年 5月27日 5人 第2回 平成16年 9月27日 8人 第3回 平成16年11月29日 13人 第4回 平成17年 1月24日 9人 第5回 平成17年 3月24日 (予定)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 建築構造物が関係する各種の力学的挙動を整理し、それに対応する力学モデルとの関係、モデル化による理論的構築手法を整理し、力学現象の妥当性と解析法の問題点を検討した。 研究情報を交換して、次年度開催予定のPDの企画と準備をした。 委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 2年が経過し、当初計画の通り進捗している。
その他評価すべき事項	構造設計法が高度化し、ソフトに依存する傾向が増幅する中で、設計の原点である力学現象を解析するモデル化についての把握は必要不可欠であり、研究者および設計者が計算基盤を明確に把握できる基盤作りを行う。し